製本のススメ　Vol. 52

毎日報道されるインフルエンザの話題　まったく100年に一度の不況とか、新種のウイルスだとか・・・・それにしても人種・性別・年齢・職種すべてに関係なく、これらはやって来ますよねぇ。ある意味では本物の【平等】という事でしょうか？

今回は薄い本・厚い本の限界のお話し

中綴じ加工は比較的安価で加工時間も速く出来上がるので、様々なタイプの印刷物に活用されています。この加工は見開き具合も良くカタログや簡易説明書などに多く使われていますが、欠点としては厚い本を綴じることが出来ないことです。また**中の頁が徐々にせり出してくる**ので、各台ごとにネームを追い込まなくてはならず、判付けがわずらわしい・**背文字が付けられない**などがあります。紙厚が大きく関係してきますので、何ページまでが可能とは言えませんが目安として本の半分の厚みが５ミリ程度まで（本全体の束厚が１０ミリ程度）と考えてください。薄さは紙２枚からですが、この場合紙厚の薄いものは向いていません。針金の太さがありますので、薄すぎる用紙では針金がブカブカになってしまいます目安としては本の半分の厚みが１ミリ以上（本全体の束厚が２ミリ）と考えてください。

価格に関してのみ言えば、薄い物は中綴のほうが安価ですが、８０頁程度を分岐に中綴より無線綴のほうが、安価になる場合もあります。むろん加工内容でも安価の度合いは変わりますし、薄い本でも、ハガキやペラ等の糊つけ加工があれば、時間もコストもあがってしまいます。

また中綴は無線綴とは、版付けの位置が違います。さらに本掛け 16 頁の面付けの場合では、ドブの取り方が無線綴とは変わります。これを間違うと中綴機に乗らず、すべてが手作業という事態になってしまい、**大きなロスを生む**こともありますので、注意してください。

Ｔｅａｂｒｅａｋ

最近は宝くじも色々な種類がでて楽しいですね♪（当たればもっと楽しいのですが）江戸時代では富くじと言われ、まさに富を得られる庶民の娯楽だったことは、今でも変わりがありません。さてこの宝くじの正式名称があるって知っていましたか？【当せん金附証票】これが法律上の呼び名だそうです。

でも「宝くじ」のほうが、夢があって良いですね。叶うなら夢でなく現実に当選してみたいものです。

by（株）井関製本